

鹿児島県下教育委員会の生涯スポーツ事業：現状と課題

長岡良治・奥保宏・南貞己
西種子田弘芳・徳田修司・飯干明
末吉靖宏・福満博隆

(2002年10月15日 受理)

Lifelong Sport Projects of the Local Education Committees in Kagoshima Prefecture : The Present Situations and Problems

NAGAOKA Ryoji, OKU Yasuhiro, MINAMI Sadami
NISHITANEDA Hiroyoshi, TOKUDA Shuji, IIBOSHI Akira
SUEYOSHI Yasuhiro, FUKUMITSU Hirotaka

要 約

本調査研究では県下の教育委員会の社会体育担当者から各地域で開催しているスポーツ事業について参加者の動向や高齢者対策等について調査し、本県の生涯スポーツ活動の現状を把握し、各地域の活動の特性や今後の方向性について検討した。スポーツ教室では、3、4年前に比べて参加者は市と町では増え、村では減る傾向にあった。参加者が増えている教室は健康づくりに関係するものが多く、教室運営では、指導者不足が大きな問題となっている。スポーツ行事でも参加者が減少しており、運営上も参加者確保に苦慮しているという回答が多かった。高齢者対策は何らかの形で約6割の市町村が対応しているが、寝たきり老人をつくらないためにも、ボランティアの育成と高齢者が仲間と楽しく参加できるスポーツプログラムの作成や地域間交流が必要であることが示唆された。

緒 言

少子・高齢化がますます進行する現代社会において、子供の体力は長期的にみると低落傾向にあり、老人医療費は上昇を続け、医療保険制度の抜本的改定もせまられている^{1) 2)}。また、経済が豊かに、生活が便利になるにつれ、体を動かす機会は減り、国際化、情報化、高度産業化によってス

トレスが増加し、健康に不安をおぼえる人が増えてきている。このような状況の中、人々が健康を維持するうえで有効な手段としてスポーツには大きな期待が寄せられており、すべての人々が生涯の各時期に、いつでもスポーツを楽しむことができる生涯スポーツを推進することは、健康面だけでなく、生きがいのある生活と活力のある社会づくりにとって極めて大きな意義がある^{3) 4)}。

これまで本県の生涯体育・スポーツは県下の教育委員会や総合体育センターを中心に推進され、着実に成果をあげてきた。しかし、順調に伸びてきた社会体育行事等への参加者もここ数年頭打ちあるいは減少傾向にあり、新たな対応が迫られている⁵⁾。また2000年9月にはスポーツ振興基本計画も示され、総合型地域スポーツクラブの創設と育成が強調されている。しかし、文部科学省が平成7年度から行っている「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業」の実施市町村の実態は、趣旨・目的がまだまだ地域住民のレベルまでは浸透していないのが実情との報告もある^{6) 7)}。

よって、本調査研究では県下の教育委員会の社会体育担当者から各地域で開催しているスポーツ教室やスポーツ行事について参加者の動向、あるいは高齢者への対策等を調査し、本県の生涯体育・スポーツ活動の現状を把握し、各地域の活動の特性や今後の方向性についての手掛りを得ることにした。

調査方法

1. 調査期日及び対象

本調査研究は平成13年3月16日から平成13年4月10日に、県下96市町村教育委員会の社会体育・生涯スポーツ担当者から各教育委員会が実施しているスポーツ教室・スポーツ行事について回答して頂いた。

2. 回収率

回収率は92.7%であった。川辺町、上甕村、隼人町、末吉町、大根占町、大和村、住用村からは回答が得られなかった。

3. 調査方法及び内容

郵送による質問紙調査法を用いた。質問の内容は、平成12年度開催のスポーツ教室・スポーツ行事について（開催スポーツ教室・行事の種目名、件数、過去3～4年間の参加者の増減及びその理由、運営の予算、今後開催すべき教室・行事、運営で困っていること、県や市町村が力を入れるべきこと、運営に必要な指導者の資格、ユニークな行事）、ボランティアについて（活動の内容、人数）、高齢者の健康対策についておよび地域住民の健康やスポーツに関する意識調査の有無についてであり、回答は計25の質問に対し、あてはまるものを選びその記号を○で囲む形式、あるいは、必要に応じて記入する形式で行われた（附表1）。

結 果

1. 12年度開催のスポーツ教室

(1) 開催教室の現状及び今後開催すべき教室

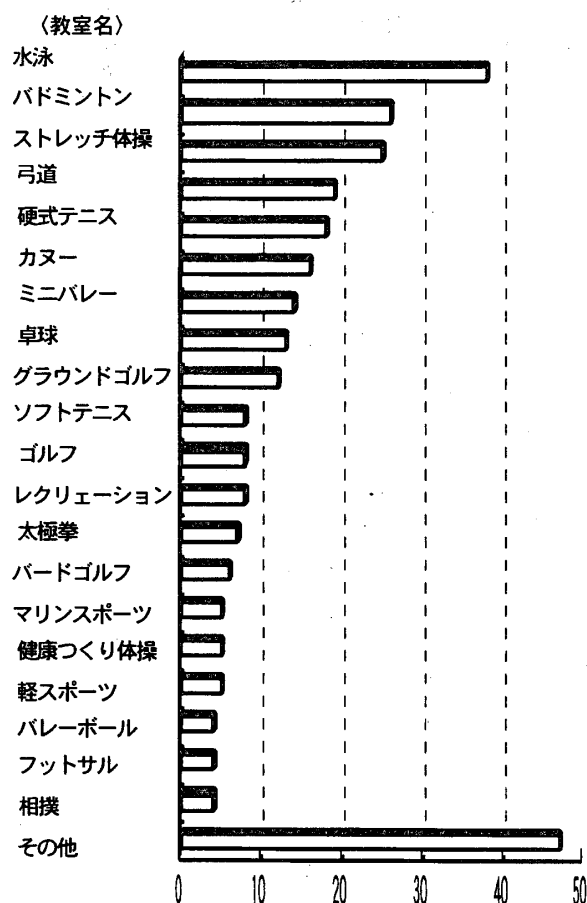


図1. 12年度開催のスポーツ教室

図1は平成12年度に県下の市町村が開催したスポーツ教室を示す。多く開催された教室は水泳、バドミントン、ストレッチ体操、弓道、硬式テニスの順であった。3、4年前に比べて教室への参加者が増えたと答えた市は42.9%，町で28.2%，村で0%，減っていると答えた市は21.4%，町で11.3%，村で20%で、全体として市と町では増えているが村では減っている。

図2と図3は3、4年前に比べて参加者が増えている教室と逆に減っている教室について各々示す。参加者が増えている教室はエアロビクス、バドミントン、健康体操、アクアビクス、太極拳、ウォーキングなど健康づくりに関係するものが多い。減っている教室はニュースポーツ系、バレーボール、卓球、武道系であった。

参加が増えている要因として、多い順に「健康への関心が高まっている」、「その時のニーズにあった教室である」、「施設環境が整ってきた」、「参加対象を拡大した」などがあげられてい

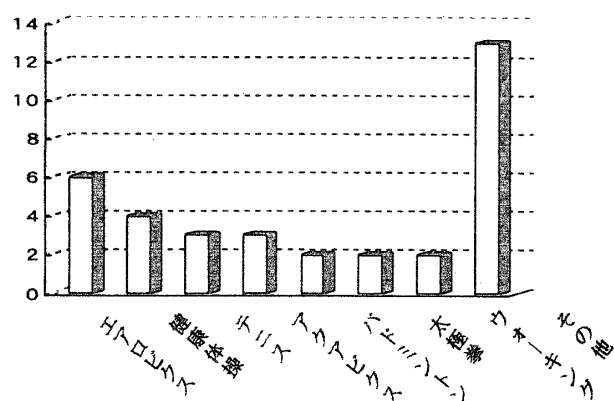


図2. 参加者が増加している教室

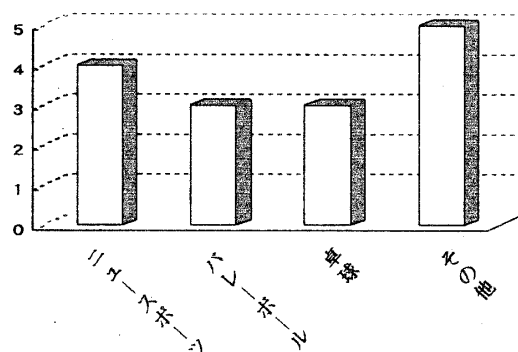


図3. 参加者が減少している教室

た。一方、参加者減少の要因として、多い順に「高齢化による競技人口の減少」、「開講時間問題」、「内容の工夫や広報活動の不足」などがあげられていた。

今後開催すべき教室としてニュースポーツ、健康体操、ウォーキング、エアロビクス、アクアビクス、レクリエーションなどがあげられていた（表1）。

表1. 今後開催すべき教室

件数	教室名
21	ニュースポーツ
14	健康体操
8	ウォーキング
6	エアロビクス レクリエーション アクアビクス
3	ゴルフ 競技力向上教室 軽スポーツ 体力測定親子 参加型教室
2	バドミントン ミニバレー 海洋スポーツ ジョギング
1	卓球 バスケット サッカー キンボール カヌー キャンプ ソフトテニス 陸上 グランドゴルフ ヨガ教室 水泳 太極拳 体力づくり マッサージ教室 ストレッチ ターゲットバードゴルフ

(2) 教室運営の予算及び運営・指導者

教室運営の予算は、市町村予算（41.5%）、寄付や補助（26.4%）、参加者負担（18.9%）、特に決まっていない（13.2%）であった。実際に教室の運営や指導に携わっている人は、体育指導委員（21.8%）、市町村社会体育担当者（18.7%）、社会体育有志指導者（13.1%）、派遣社会体育主事（8.2%）、レクリエーション指導者（7.1%）、教員（5.2%）、エアロビックスインストラクター（4.5%）、スポーツ指導委員（4.1%）、その他（17.3%）であった。

(3) 教室運営で困っている事及び今後力を入れるべきこと

図4と図5は教室運営で困っていること、県や市町村が力を入れるべきことを各々示す。教

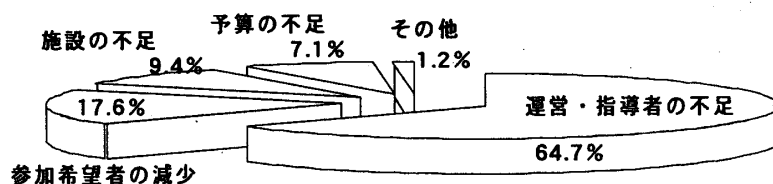


図4. 教室運営で困っていること

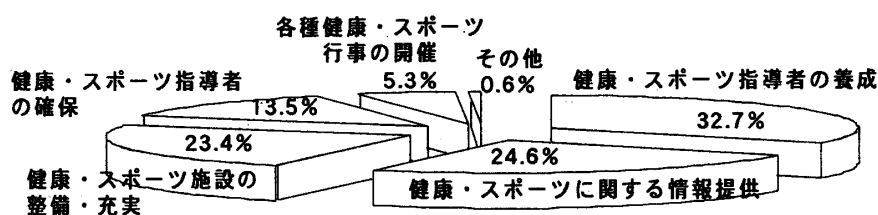


図5. 県や市町村が力を入れるべきこと

室運営で困っていることとして、6割以上の人が運営・指導者不足をあげている。また、県や市町村が力を入れるべきことでも、第1位が健康・スポーツ指導者の養成であり、第4位の健康・スポーツ指導者の確保と合わせると約5割が健康・スポーツ指導者に関連している。スポーツ教室の運営に必要な資格として、スポーツ指導委員、レクリエーション指導者、健康運動指導士、スポーツプログラマー、社会体育有志指導者、健康運動実践指導士、競技力向上指導者などがあげられていた（表2）。

表2. 教室運営に必要な資格

スポーツ指導委員	23.0%
レクリエーション指導者	17.5%
健康運動指導士	13.5%
スポーツプログラマー	12.7%
社会体育有志指導者	8.7%
健康運動実践指導士	7.9%
競技力向上指導者	4.0%
体育指導委員	4.0%
少年スポーツ指導委員	2.4%
教員	1.6%
水泳指導管理士	1.6%
その他	1.6%
エアロビックダンスインストラクター	0.8%
キャンプ指導者	0.8%

2. 12年度開催のスポーツ行事

(1) 開催行事の現状及び今後開催すべきスポーツ行事

図6は平成12年度に開催されたスポーツ行事を示し、最も多かったのは体育大会で、次に駅伝、バレーボール、ソフトボール、グラウンドゴルフ、マラソンと続く。3, 4年前に比べてスポーツ行事への参加者が増えていると答えた市は14.3%, 町は14.1%, 村は20.0%, 減っていると答えた市は35.7%, 町は28.2%, 村は0%, 全体では村以外減っている。

参加者が増えているスポーツ行事は、ジョギング大会や健康ふれあいニュースポーツフェスタ、バレーボール大会、ウォーキング大会などである(図7)。参加者増加の理由として多い順にみると、「新しい競技を取り入れたり、ふるさと祭りなど他イベントと同時開催しイベントを魅力あるものにしている」、「健康に対する関心が高まり、ニュースポーツやウォーキング・ジョギング愛好者が増加している」、「都市間交流したり、広報活動を活発にしている」、「年代別、職域等で誰でも参加しやすいようにしている」といったことがあげられている。

一方、参加者が減っているスポーツ行事は、マラソン大会、バレーボール大会、ソフトボール大会、体育大会、駅伝競争大会などであった(図8)。参加者減少の理由として多い順にみ

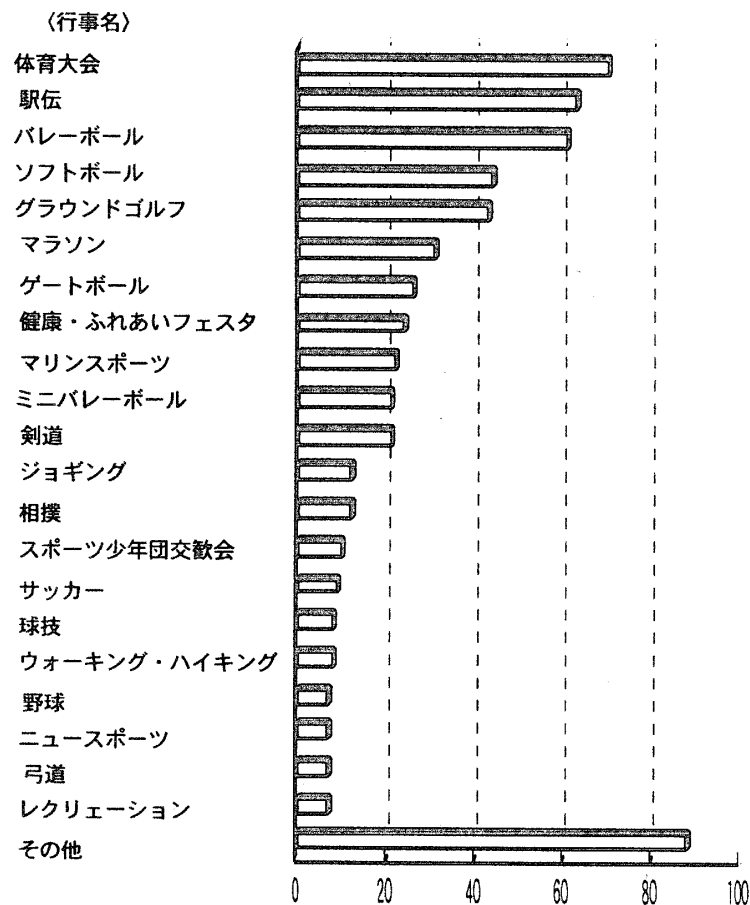


図6. 12年度開催のスポーツ行事



図7. 参加者が増加している行事

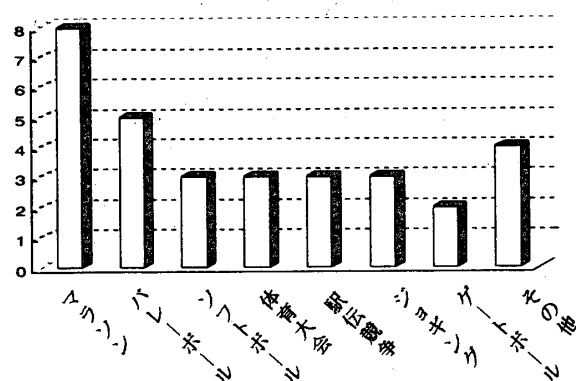


図8. 参加者が減少している行事

表3. 今後開催すべき行事

件数	行事名
12	健康に関するイベント
11	ニュースポーツの普及をめざすイベント 幼児から高齢者までふれあいができる行事
8	海や河川を利用したイベント
6	ファミリーふれあいウォーキング
4	総合型に行うスポーツ 現状維持または行事を減らし行事を充実
3	周辺市町村と共同で開催できるスポーツ大会 スポーツレクリエーション
2	プロアマ合同大会 グランドゴルフ大会、 広域的なウルトラマラソン大会 高齢者向けイベント サイクリング大会
1	野球（公式戦） 陸上教室 ビーチバレー大会 競争を主目的としない大会 野球教室 ソフトバレーボール大会 市民のニーズにあったイベント 教員への諸講習会

ると、「各市町村での行事開催が増し、日程が重なったり、行事の内容がマンネリ化」、「過疎化、高齢化により競技性の強い大会への参加が減少」、「広報活動不足」などがあげられている。

今後開催すべき行事としては健康に関する行事、ニュースポーツの普及をめざす行事、幼児から高齢者までふれあいができる行事、海や河川を利用した行事、ファミリーふれあいウォーキングが主なものであった（表3）。

(2) 行事運営・指導及び運営の予算

行事の運営・指導にあたっている人は、体育指導委員（28.1%）、市町村社会体育担当者（27.0%）、社会体育有志指導者（14.4%）、少年スポーツ指導委員（6.0%）、教員（4.9%）、レクリエーション指導員（3.5%）、市町村体育協会職員（3.2%）、役場職員（2.1%）、その他（10.8%）であった。

行事運営の予算は、市町村の予算（42.4%）、寄付や補助（35.6%）、参加者負担（21.2%）、

特に決まっていない(0.8%)であった。

(3) 行事運営で困っていること

行事運営で困っていることは、参加者の確保(42.1%)が最も多く、運営役員・専門指導員・ボランティアの確保(27.6%)、予算不足(7.9%)、会場・用具・駐車場の確保(7.9%)、行事のマンネリ化(5.3%)、安全対策(2.6%)、その他(6.6%)であった。

(4) 各地域のユニークな行事

表4は各市町村で行われているユニークな行事を示す。行事には各地域の名称や特産物の名前がつけられており、これらを内容から分類すると、マラソン・ロードレース・クロスカントリー、ジョギング、駅伝、ウォーキング、カヌー・カッターなどの船漕ぎ競技、トライアスロン、既成のスポーツ、ニュースポーツ、健康・ふれあいフェスタ、武道、その他に分けること

表4. ユニークなスポーツ行事

行事の種類	行 事 名
マラソン系(17)	えい新茶・大野岳マラソン大会 とうごう天神梅マラソン ツルマラソン くりの高原ランニング
	国分上野原テクノマラソン(縄文、復元遺跡内特設コースを走る) 金峰おむすびマラソン大会
	あくねボンタンロードレース大会 あづまブリッジマラソン大会 真夏のロードレース大会(7月下旬)
	国分テクノマラソン しぶしポートマラソン大会 垂水マラソン走歩大会 ランニング桜島
	つつはの桜マラソン大会 レディースランニング 銀河マラソン大会 与論マラソン
	フラワージョギング大会 お茶まつりジョギング大会 鶴田ダムジョギング大会
ジョギング系(12)	ふくふくランドジョギング大会 花の島沖えらぶジョギング大会 伊集院梅マラソンジョギング大会
	俊寛ジョギング大会 吹上青松ジョギング大会 観音滝ジョギング大会 ジョギング屋久島大会
マリンスポーツ(11)	くしら桜まつりジョギング大会 長島トライジョギング大会
	ダイビングフェスタ とうごうカヌー大会 串良川クリーンキャンペーン川下り大会
	根占ドラゴンボートフェスティバル カッター大会 カヌーラリー(川下り競争)
	奄美祭(舟こぎ競争) 根占ジュニアアクアスロン大会 ビーチバレー
	シーカヤックマラソンin加計呂麻大会 上屋久町ドラゴンボート大会
駅伝系(9)	鹿児島県職域駅伝競争大会 九州選抜高等学校駅伝競争大会 市民駅伝大会
	小学校区対抗サンロード鹿屋駅伝大会 町内一周駅伝大会 南日本女子駅伝競争大会
	鶴駅伝競争大会 長島一周駅伝競争大会 たしろ花瀬駅伝大会
ウォーキング系(9)	ウオークラリー大会 れいめいウオーク羽島・土川大会 徐福ロマンロードウォーキング大会
	開門岳登山大会 串木野市3大ウォーキング大会 元気が出る街づくりウォーキング大会
	パナウルウオーク 妙円寺詣り行事大会 花の霧島菜の花ウオーク
ニュースポーツ系(8)	高齢者ニュースポーツ高峰大会 加世田デュアスロン大会 南九州ふうせんバレーボール大会
	生涯スポーツの集い 町家庭婦人ホッケー大会 鹿の子わりゲートボール大会
	ホッケー祭り スポーツレクリエーション講習会
従来のスポーツ系(4)	出会いふれあい卓球大会 ちらんピオンテニス大会 自治公民館対抗野球大会
	町内(出水地区内在住) 同年対抗ソフトボール大会
トライアスロン系(4)	奄美レディストライアスロン 徳之島トライアスロン大会 大浦トライアスロン大会
	いむた池鉄人レース
ふれあい・健康フェスタ(3)	市民生き生き健康フェスティバル 市民ふれあいフェスタ
	東串良ルービンフェスティバル
クロスカントリー(2)	南日本クロスカントリー大会 霧島ヶ丘公園クロスカントリー大会
武道系(2)	少年相撲大会 全国中学選抜剣道大会
その他(5)	名瀬市民大会体育 海の子カーニバル(遠泳) スポーツフォトコンテスト事業 どんこ大会
	全九州フィッシングin佐多岬

ができる。

(5) ボランティアについて

スポーツ行事でのボランティアの人数についてみると、1～50名が37行事、51～100名が20行事、101～150名が11行事、151～200名が7行事、251～300名が4行事、400～500名が2行事、1000名以上の大規模なものが4行事あった（図9）。これら大規模な4行事は指宿菜の花マラソン、花の島沖えらぶジョギング大会、徳之島トライアスロン大会、与論マラソン大会である。

ボランティアの活動内容は、運営全般が最も多く、競技役員、審判、誘導、接待、中継所監視補助等が続く（表5）。

3. 住民の健康・スポーツに関する実態調査及び高齢者対策

住民の健康・スポーツに関する実態調査はわずか12市町村が実施しているにすぎず、そのうち3

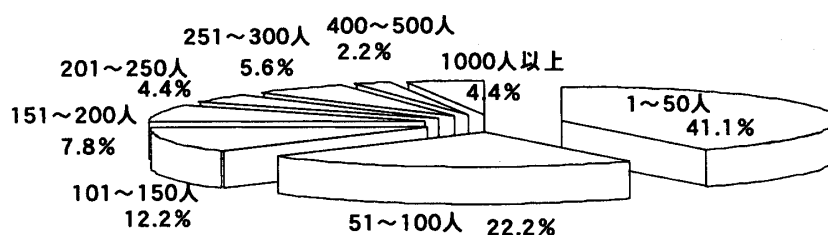


図9. ボランティアの人数

表5. ボランティアの活動内容

順位	活動内容
1	運営全般
2	競技役員、審判
3	誘導、整列
4	接待係、中継所監視補助
5	交通整理、給水
6	記録集計、大会受付、救護
7	夜食づくり・炊き出し
	片付け・ごみ拾い、会場整理
8	表彰係、用具準備、大会役員
9	ルービンの種まき、放送
	宿泊関係、掲示、遠泳指導
	PR活動、荷物係、大会準備
	抽選引き換え、タオル配付

表6. ユニークなスポーツ行事

高齢者のスポーツ教室、ヘルスアップ教室を実施	21.6%
福祉課と連携して運動指導をしている	15.7%
高齢者教室の中で健康講座を設けている	11.8%
高齢者向けのイベントを開催している	11.8%
町保健センターとタイアップして毎年体力測定実施	11.7%
施設・用具や運営に便宜を図っている。	5.9%
総合型地域スポーツクラブ育成の一環として高齢者でも参加しやすい運動プログラムを用意している	5.9%
民生課とタイアップして健康づくり教室等行っている	3.9%
保健婦と組んで高齢者の運動教室を実施した	3.9%
住民課と連携を図り、誰でもできるスポーツ（ウォーキング、グラウンドゴルフ）の普及に勤めている	3.9%
福祉関係者に、レクリエーション活動の普及をしている	2.0%
市医師会の協力を得て健康体力相談を実施	2.0%
その他	15.6%

地域は現在分析中である。実施した市町村は、アンケートにより、住民のスポーツ実施の状況やスポーツに対する意識を把握したり、市町村に対する要望を聞いたりしている。しかし、行政の立場として調査の結果をもとに住民の要望に十分対応できている市町村はなく、部分的に対応できている市町村がほとんどである。対応が困難な理由として、専門的な指導者などの人材不足、予算の不足、財政難による施設の整備不足などがあげられている。

高齢者対策については、高齢者スポーツ教室やヘルスアップ教室の開催（21.6%）、福祉課と連携した運動指導（15.7%）、高齢者教室の中での健康講座開催（11.8%）や高齢者向けの行事の開催（11.8%）等何らかの形で57.3%の市町村が対応している（表6）。

考 察

スポーツ教室への参加者の増減は、住民のニーズや関心の動向を知る上でも、スポーツ教室を成功させる上でも重要な指標となる。本調査で参加者が増えている教室はエアロビクス、健康体操、アクアビクス、太極拳、ウォーキングなど健康づくりに関係しているものが多いということが明らかとなった。笹川スポーツ財団調べ⁸⁾による我国の種目別スポーツ実施率をみると、実施率が高いのは男性ではウォーキング・散歩、ボウリング、女性ではウォーキング・散歩、体操であり、まさに日本人の人気ナンバーワンスポーツはダントツ「ウォーキング・散歩」で、成人の3人に1人が実施しており、3位の「体操」と合わせると2人に1人が週2回以上実施している。また年代別

スポーツ実施率をみると、20歳代ではボーリングやスキー、30歳代ではボーリングと海水浴、40歳代ではウォーキング・散歩とボーリング、50歳代以上ではウォーキング・散歩や体操が上位を占めている。70歳以上ではグラウンドゴルフやゲートボールが浮上している。

そこで、本県でも実際に地域住民のスポーツ種目の好みや実施状況について調査した事があるかどうか聞いたところ12市町村で調査が行われているにすぎず、そのうちの3地域ではこれから結果を分析するということであった。残念ながら本県ではまだ住民の意識が確認されていないが、いずれにしても、ウォーキング・散歩、体操、などの健康スポーツ教室への参加者が増加傾向にあることから、健康に対する意識が高まってきていると考えられる。そして、ニーズの高いスポーツ種目は年代や性差によって異なるので、成功したスポーツ教室はその点が考慮されていると言える。

逆に、参加者が減っている教室はニュースポーツ系、バレーボール、卓球、武道系で、参加者減少の主な理由は高齢化による競技人口の減少、開講時間に問題あり、内容の工夫や広報活動の不足などがあげられている。高齢化による競技人口の減少は確かに教室参加者の減少に影響を及ぼすかも知れない。しかし、過去5年間で急速に少子高齢化が進んだ地域でも参加者が増加したり、少なくとも現状維持している地域も多いことから、今回のように3、4年という短い期間の変化でみた場合、少子高齢化というのは参加者減少にあまり重要な因子ではないように思われる。笹川スポーツ財団調べ⁸⁾による運動・スポーツ活動への参加促進要因をみると、参加を促進する条件は、男性では休暇が増えれば、勤務時間が短くなればと云った時間的ゆとりが重要であることを示している。女性では一緒に行く仲間ができれば、家事・育児が軽減されればといった時間的ゆとりと「仲間」が重要であることを示している。この事を考慮すると、どちらかといえば参加者の減少は時間的ゆとりや教室の内容に大きく関係しているものと思われる。また、鹿児島県民の余暇活動に関する調査によると、希望としては、平日・休日とも、余暇活動にスポーツをすることを望んでいる人が多い。しかし、実際には、自由時間が増えるとともに、平日・休日の余暇活動には、パソコンやテレビなどのメディアや、ショッピングやおしゃべりなどの社交飲食が多く、スポーツをする人は減少傾向にあると指摘されている⁹⁾。この状況を踏まえると、個々人の生活に根ざしたスポーツができるように工夫し、さらに魅力ある教室にする必要があると思われる。

ところで本調査では、今後開催すべき教室としてニュースポーツ、健康体操、ウォーキング、エアロビクス、アクアビクス、レクリエーションがあげられていた。ニュースポーツ系の参加者が減っているにもかかわらず今後開催すべき教室としてあげられているのは、ニュースポーツにも人気のあるものとなないものがあるためと思われる。どのような種類のニュースポーツがニーズにあっていいのか分析していく必要がある。

本調査結果から、スポーツ教室運営における問題点の1番目は指導者不足であった。指導者不足により社会体育担当者が企画、運営、指導まで行い負担が大きく、そのため魅力ある新しい企画をたてるだけの余裕がないようである。2番目は地域住民のニーズや活動状況が十分に把握されていなかった。3番目は教室参加者が決まった人に固定されていて、新規開拓につながらないというこ

とであった。この解決策として社会体育担当者は、初めに、住民のニーズやスポーツ実施状況を早急に把握する必要がある。次に、NPO（民間非営利団体）法人などを利用してニーズに対応した総合型地域スポーツクラブの組織化と指導者の養成を推進する必要がある。そのようなクラブができ、既に生涯スポーツに対する意識が高い住民にはそこで活動してもらうことになれば、あまり多くの教室を開く必要もなくなると思われる。そのことによって、社会体育担当者の負担が軽減されるので主眼を新規参加者開拓におくことが可能になり、より多くの住民の生涯スポーツへの感心を高めることができると考えられる。しかし、我が国では、地域のスポーツ行政担当者や体育指導委員、スポーツ団体の間においても、総合型地域スポーツクラブの意義・必要性が十分認識されていない場合が少なくない。また、総合型地域スポーツクラブ創設へのニーズが高まっている地域でも、地域の関係者間の調整を行いながら創設を推進していく熱意と能力を有する人材を得るのが難しいという問題もあるようなので、そのあたりの基盤整備が必要であろう。

一方、スポーツ行事についてみると、スポーツ行事は、地域住民の連携や親睦を深め、地域の活性化に重要な役割を果たしている。各地域でいろいろなスポーツ行事が開催されており、地域住民がボランティアとなって行事を盛り立てている¹⁰⁾。スポーツ行事でのボランティアの人数についてみると、50名以下が最も多く、多くても500名以下であった。しかし、指宿菜の花マラソン（1200名）、花の島沖えらぶジョギング大会（1000名）、徳之島トライアスロン大会（1000名）、与論マラソン（1200名）は1000名以上の大規模なイベントで、これらはいずれも全国的規模の行事であり、地域の活性化に大いに寄与していると思われる。

スポーツ行事開催で困っていることは、第一番目に参加者の確保であり、以下は運営役員・専門指導員・ボランティアの確保、予算不足、会場・用具・駐車場の確保、イベントのマンネリ化、安全対策等であった。参加者を確保するためには、参加者増加と減少の理由を考慮し、(1)少子高齢化に対応して行事内容を工夫して魅力あるものにしたり、(2)市町村間交流を通し、運営の協力や日程の調整及びPR活動をし、参加者と運営スタッフの参加を容易にしたり、(3)他イベントと共催したりする等の工夫が必要である。それらの点を考慮すると、参加者を確保するためにスポーツチャレンジデー¹¹⁾へ参加することも一つの方法かも知れない。スポーツチャレンジデーとは、毎年、人口が同じ規模の市町村対抗で、指定した日に、15分以上継続してスポーツをした住民の参加率を競い合う競技であり、負けた市町村は、相手の市町村旗を1週間掲揚するのがきまりである。15分以上の継続したスポーツや運動ならどんな種目（例えば：犬の散歩、ごみ清掃ウォークなどでもよい）でも参加でき、スポーツが終了したら集計センターに報告するが、それは個人でも団体でもかまわないというものである。本県の市町村はまだどこも参加していないようであるが、これからはインターネットなど情報関連機器を使った新しい形のスポーツ行事を発案していくことが求められるかも知れない。また一方では、各地域にユニークな行事が沢山あり、地域の活性化にかなり貢献していると思われるが、これからいかに県外からも人を集めることができるかについて産官学共同で考えていく必要がある。

高齢者対策については、92市町村中51市町村で何らかの形で対応していた。その内容は、高齢者スポーツ教室やヘルスアップ教室の開催、福祉課と連携した運動指導、高齢者教室の中での健康講座や高齢者向きの行事の開催等である。今後益々高齢化が進むと予測されており、寝たきり老人にしないためにそれぞれの地域に適した生涯スポーツ活動を実施できるような環境づくりをしていく必要がある。

謝 辞

本調査研究において、アンケートの回答にご協力下さった鹿児島県下市町村教育委員会の社会体育担当者の皆様に厚くお礼申し上げます。

注) 本研究は、鹿児島学の研究グループ「鹿児島の生涯体育・スポーツ」で行ったもので、一部をリーフレット「鹿児島学のプロフィール」に発表した。

参考文献

- 1) 体力づくり事業団：健康日本21情報 <http://www.kenkounippon21.gr.jp/>
- 2) 西嶋尚彦：青少年の体力低下傾向。体育の科学52(1)：4～14, 2002
- 3) 文部省資料：スポーツ振興基本計画。スポーツと健康32(2)：52～80, 2000
- 4) 萩 裕美子：生涯スポーツ学の位置づけと方向性。九州体育・スポーツ学研究15(1)：15～23, 2001
- 5) 鹿児島県総合体育センター：平成11年度県民総スポーツすすむ。2000
- 6) 地域スポーツ推進研究会：スポーツクラブのすすめ～豊かなスポーツライフの実現に向けて～：27～46, 1999
- 7) 海老原 修：地域スポーツのこれまでとこれから～コミュニティ型スポーツの限界とアソシエーション型スポーツの可能性～。50(3)：180～184, 2000
- 8) SSF 笹川スポーツ財団：スポーツライフ・データ1998～スポーツライフに関する調査報告書～。SSF 笹川スポーツ財団：1998
- 9) 山本清洋, 坂脇昭吉, 小林平造, 福満博隆：鹿児島県民の余暇活動に関する研究～現状と課題～。平成8年度教育研究学内特別経費研究成果報告書：10～26, 1997
- 10) 工藤保子：スポーツ・ボランティア。体育の科学50(3)：209～212, 2000
- 11) SSF 笹川スポーツ財団：チャレンジデー。 http://www.ssf.or.jp/04cdays/top_04.html

5. 今後の教室の運営・指導にあたって、どのような資格を持った人が必要だと思いますか。必要と思われるものを3つあげてください。

()
()
()

6. 教室運営の予算は主にどのようにしていますか。

ア, 参加者で負担 イ, 寄付や補助 ウ, 特に決まっていない
エ, その他 ()

7. 教室運営で困っていると思うものを順番に表2から選びあてはまるものを [] の中に記入してください。

[] [] [] [] []

表2 ア, 運営・指導者の不足 イ, 施設の不足 ウ, 参加希望者の減少 エ, 予算の不足
オ, その他 ()

8. 今後どのような教室を開いたらよいと思いますか。2つあげてください。

()
()

9. 健康・スポーツ教室をもっと振興させるために県や市町村が力を入れなければならないと思うものを順番に表3から記号を選びあてはまるものを [] の中に記入してください。

[] [] [] [] []

表3 ア, 健康・スポーツに関する情報提供 イ, 健康・スポーツ施設の整備・充実
ウ, 健康・スポーツ指導者の養成 エ, 健康・スポーツ指導者の確保
オ, 各種健康・スポーツ行事の開催 カ, 力を入れるものはない キ, わからない
ク, その他 ()

B. 12年度開催の健康・スポーツイベントについてお尋ねします。

10. どのようなイベントを開催していますか。表4から選びあてはまるものすべてを [] の中に記号で答えてください。

[]

表4 ア, 歩こう会 イ, マラソン大会 ウ, ロードレース エ, トライアスロン
オ, ふれあいフェスタ カ, ママさんバレーボール大会 キ, バトミントン大会
ク, 卓球大会 ケ, 健康体力相談 コ, 温水プールフェスティバル
サ, いきいき健康フェスティバル シ, 駅伝競争大会 ス, 野球大会
セ, ゲートボール大会 ソ, その他 ()

11. イベントへの参加者は過去3, 4年間で増えていると思いますか。

ア, 増えている イ, 変わらない ウ, 減っている

12. 増えていると答えた人にお尋ねします。どのイベントの参加者ですか。また増えている理由がわかればお答えください。

イベント名 []

理由 ()

13. 減っていると答えた人にお尋ねします。どのイベントの参加者ですか。また減っている理由がわかればお答えください。

イベント名 []

理由 ()

14. イベントの運営・指導には主に誰があたっていますか。表1(2ページ)の中から記号を選んであてはまるものすべてを [] の中に記入してください。

[]

その他 ()

15. イベント開催の予算は主にどのようにしていますか。

ア, 参加者で負担 イ, 寄付や補助 ウ, 特に決まっていない

エ, その他 ()

16. イベント開催で困っていることがありましたらあげてください。

()

17. 今後どのようなイベントを開いたらよいと思いますか。2つあげてください。

()

()

18. 開催しているイベントの中で地域の特性を活かしたユニークだと思うものがあれば教えてください。(例: 指宿菜の花マラソン, 与論鉄人レースなど)

()

()

()

19. 開催しているイベント中でボランティアが活動しているものがありますか。

ア, ある イ, ない

「ある」と答えた方はイベント名, 人数, 活動内容をご記入ください。

イベント名	人 数	活 動 内 容

C. あなたの市町村についてお尋ねします。

20. これまでに地域住民の健康やスポーツに関する意識調査を実施したことがありますか。

ア, ある イ, ない

「ある」と答えた方は21～24にお答えください。

21. いつ調査されましたか。

昭和・平成 [] 年

22. 調査で明らかになったことを箇条書きでご記入ください。(なおその調査の報告書等送って戴ければ記述の必要はありません。)

23. 行政の立場として調査の結果をもとにして住民の要望に対応できていると思いますか。

1, 十分できている 2, 部分的にできている 3, あまりできていない

4, 全くできていない

24. 対応が困難な理由があれば教えてください。

25. 高齢者の健康やスポーツについて何らかの対策をとっていますか。

(例：毎年体力測定を行っている。保健所とタイアップして運動生活指導をしている。等)

その他、何かお気づきのことがありましたご記入ください。

ご協力ありがとうございました。